



Eiche

Die Eiche

テイ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町2-681 ワールドナーシングホーム内

Phone: 047-467-6111 Fax: 047-467-6123

ビール祭り開催



講演する松江先生



松本氏の指揮

当協会恒例のビール祭りは好天に恵まれた10月4日(土)の午後2時半よりJR西千葉駅前の喫茶「サン」で会員及びその知人35名の参加を得て開催された。2時40分、平尾浩三会長の挨拶の後、日大歯学部の新江美代子助教授による講演「ドイツの医療事情と教育システム」に移り、御自身の1970年から10年以上に亘るドイツ留学時の体験を基に日独医療及び教育システムの違いをわかり易く説明していただいた。(詳細下記)

続いて4時過ぎからビール祭り。DAAD友の会、関映子さん経由でドイツ観光局からもらった本場ドイツのオクトーバー・フェストのポスターが5枚程壁に貼られ、デュッセルドルフの日本人駐在員で組織する「メナコーア合唱団」の指揮者をしておられた松本寛幸氏の指揮と土生氏のアコーディオン伴奏で、「Ein Prosit」を合唱してスタート。初参加の7名の人達の紹介も含めて懇親会は盛り上がった。特に松本氏に選んでいただいた10曲の中には会員にとり思い出深いものも含まれており、途中からは二宮一男さん、今村美也子さん、大河内ロスウィータさんらも歌唱指導に加わり大いに歌って6時過ぎに散会した。

ドイツの医療事情と教育システム

日大歯学部助教授 松江 美代子

ドイツの大学の歴史は古く、医科大学も日本の平安時代と呼ばれていた頃にはすでに創設されており、早くから医療をおこなう一方で、病気で就労不能になった場合の経済的保障、医療保障、埋葬金の提供などを行ってききました。一八八三年以来の公的医療保険、疾病保険にくわえて、一九五〇年代からは、自主管理の民間機関を設立し、雇用者と被雇用者双方が費用を平等に負担する現在の医療保険制度に移行しています。

一九七〇年代、主な治療は保険に全額負担してもらえました。ただし歯科治療は一部負担でした。私がドイツに滞在していた一九七七年頃までは歯の補綴治療のみが八割保険負担で、自己責任において患者は治療をうけ、医師は最良の治療方法を選択することができシステムで、ドイツ歯科界の黄金期でした。

その後一九九七年までに三度、社会保障給付費の中での医療費の負担軽減のために医療費抑制策を施行し、患者の自己負担比が五割までに増額されました。医師に対しては収入に制限が設けられ、治療の出来高払いを廃止して定額制とし、治療方法に制限ができました。そのため現在では、医師は学生のなりた職業の中で四番目くらいに転落してしまいました。更に医師が過剰となった現在では医師の海外流失が進み、一方地方では医師不足です。

ドイツにおける医師、歯科医師の教育は、義務教育九年のうち、まず四年をGrundschule(基礎学校)に行き、その後九年制のGymnasium(大学進学予備校)へゆきます。Gymnasiumの成績で進学が決定されますが、その他にも職業や他の学歴などが考慮され、大学に入学を許可される学生の年齢、経歴は多様です。医学部は六年制、歯学部は五年制ですが、日本のようにエスカレーター式に卒業する学生は少数で、入学式や卒業式などもなく、学生は全く自主的に自己責任の感覚で学業を積み必要があります。

技工士などの多くの他の職業には、徒弟制度がまだ生きています。Grundschule(終了後に実科学校(Realschule)六年)または専門学校(Fachschule)五年)にゆき、技工士の見習いとして実技をマイスターのもとで少額の給料をもらいながら修行し、Meister(試験を受けてマイスターになるので、マイスターはアカデミカー(大卒者)と対等な職業意識を持っています)。

このようなドイツの教育システムの根幹には、なにか人間形成に日本とは違った独立性、自立性が求められており、日本の大学人となった現在の私には、ドイツのシステムが少々うらやましいところではあります。

～今後の催物案内～

■在日ドイツ留学生と

「江戸開府400年 小江戸・川越」へ遠足

日時：11月3日(月)文化の日

集合：9時45分西武新宿線「本川越」駅前集合
(高田馬場発8:23の急行で9:18本川越着
同8:30の急行で9:26本川越着)

昼食：12:30明治元年創業の「初音屋」で「せいろ膳」を賞味。後、和太鼓演奏

会費：3000円(交通費は各自負担)
郵便振替口座00150-8-55593に各自振込み

申込：1. FAX/03-3265-3420
2. 葉書/102-0083 千代田区麹町5-1
NK真和ビル9階 (財)日独協会宛
いずれも「千葉県日独協会会員」と明記のこと

■ドイツ軍人慰霊祭

日時：11月30日(日)11:00AM～

場所：船橋市営習志野霊園内
JR総武線津田沼駅北口よりバスで15分
「自衛隊前」下車。正門の正面に向かって
左手50mの角を右折、直進徒歩7分右側。

直会：各自負担(2000円以内)

■クリスマスの集い【(財)日独協会主催】

日時：12月16日(火)18:30～

場所：ホテル・ニュー・オータニ

会費：10,000円(同伴者9,000円)

申込：(財)日独協会
郵便振替口座No.00150-8-55593
千葉県日独協会会員と明記の事

■特別講演会のお知らせ(入場無料)

演題：「愛の喜び・愛の哀しみ-中世ドイツ文化入門」

講師：平尾浩三先生(当協会会長)

日時：10月26日(日)13:30～15:00

場所：日本橋学館大学(JR柏駅より徒歩20分)
FAX 04-7163-0096 にて申し込み

ドイツ国防武官ヴァルナー海軍大佐ならびに

新国防武官ゲーペル陸軍大佐歓送迎会開催

去る9月8日(月)午後6～9時、上智大学ソフィアンズクラブにおいて、千葉県日独協会、横浜港ドイツ艦船爆発事故を語り継ぐ会ならびに(財)日独協会等各団体役員有志が発起人となりドイツ大使館国防武官ヴァルナー海軍大佐と後任のゲーペル陸軍大佐の歓送迎会が開催された。

開催に先立ち、澤登典夫団長の指揮する旧海軍兵学校第77期有志で編成された男声合唱団コア7(なな)26名の皆さんによる鎮魂歌合唱が行われ、海行かば(日)、Der gute Kamarad(独)など4曲が献歌され、続いて千葉県日独協会の平尾浩三会長がヴァルナー大佐の今日までのご尽力について独日両語を交えて謝辞を述べ、記念品として武運長久稲毛神社(川崎)氏子総代が着用する市川緋佐麿官司署名入りのハッピーを贈呈し、今後の健勝を祈願した。

次にハッピー姿のヴァルナー大佐が挨拶に立ち、流暢な日本語で5年間におわたる勤務で得た様々な支援と好意に礼を述べ、続いて新国防武官ゲーペル大佐が同じく日本語で今夕の歓送迎会招待に謝意を述べるとともに、今後の任務に対する決意と協会側の支援を期待する旨の挨拶をされた。その後、千葉県日独協会の国枝誠昭副会長の音頭で乾杯をし、懇親会に移り、両大佐へ花束贈呈、Muss i dennの大合唱で閉会した。

ヴァルナー海軍大佐・ゲーペル陸軍大佐へのご挨拶

千葉県日独協会会長 平尾 浩 三

在日ドイツ大使館付国防武官、尊敬する海軍大佐ライムント・ヴァルナー殿! 尊敬するヴァルナー夫人!

千葉県日独協会の会長役に就いて以来、私、年に少なくとも一度は、ヴァルナー大佐にお目にかかる機会を得ることとなりました。つまり毎年十一月の国民哀悼の日に、習志野霊園でお目にかかったのであります。習志野霊園は、第一次大戦において虜囚の身のままに亡くなられたドイツ人将兵の墓碑の立つところであります。

11月の寒風の中、私たちは同地に集い、異国に亡くなられた将兵の魂安かれと、心を込めて祈りを捧げました。同時にその機会に私たち日本人参列者は、ドイツ士官の、毅然たる、騎士を思わせるものごしを、理想的な姿でヴァルナー大佐に見、大いなる感銘を受けるのであります。そしてまた、ドイツ潜水艦はこの巨体を積載する力を見えるものであることを、私たちは賛嘆の思いを込めて認識致したのであります。

霊園参拝のあと、私たちは小さなレストランで共に昼食を摂るのでありますが、そこにおいてはヴァルナー大佐は、もはやいかめしい大使館付国防武官ではなく、まさに「いい人」、「良い人」という以外の何者でもありません。ビール・ジョッキをかかげつつ、私たちは楽しい会話を交わしました。何について私たちが話し合ったか.....奥様のおられるところでは...申さないほうが...よろしいかも.....

そのヴァルナーさんと今やお別れせねばならぬことを、私たち日本人は、淋しく思っております。日本の諺に「会うは別れの始め」というのがあります。しかし今日、地球は小さくなりました。今後もしばしばお会いできることを、私たちは願ってやみません。ドイツにおいてであれ、日本においてであれ、またお会いできることを期待致しております。今はただ、ヴァルナーさんとご家族様が今後とも、幸と陽光溢るる日々にお暮らしになることを、心から祈るのみであります。

出会いはすべて、早かれ遅かれ避け難き別れを伴う.....これは人の世の定めであります。しかし別れと同時に、新たな、美しき出会いも訪れるのであります。

ヴァルナーさんの後任として、陸軍大佐ヘルムート・ゲーペル殿をお迎え致すことを、私たちは心から嬉しく思っております。ゲーペル様、そしてゲーペル夫人、ようこそ、おいでになりました。ゲーペル大佐のお力を得て、そして奥様の内助のご支援により、独日の友好関係がいっそう堅固緊密なものとなりますように! ゲーペル大佐と奥様が日本において、美しき、お幸せな、成果豊けき日々をもたれることを、お祈り致しております。ご静聴、ありがとうございます。

(両大佐の挨拶は次号に掲載予定です)

挨拶する平尾会長



ハッピー姿で挨拶するヴァルナー大佐

